

授 業 科 目 の 概 要

科 目 名	内 容 <small>※授業内容は変更になる場合があります。</small>
文学	日本の近現代文学はいかなる内実を持ち、そこにいかなる価値を見出せるのか。「文学」では、主として明治以降の詩歌、小説、童話など具体的な作品を概観しながら、文学の面白さやその価値にふれる。その際、作品個々にアプローチする方法を紹介し、学生自身が文学を主体的に読む姿勢を養う。また、映画やマンガなども教材として取り上げ、文学が周辺分野といかに関わっているのかも確かめる。それらによって、文学を分析するための観点を具体的に教授する。
脳科学と心	”見えてないものが見える”、”聞こえないはずの音が聞こえる”、”手で見る”、”鼻で味わう”、といった感覚の不思議さやヒトの認知・運動のメカニズムを知ることによって人間の「心」の理解と脳科学が果たす役割について最新の脳科学の知見を交えて学修する。さらに脳に関係する病気（脳血管障害、てんかん、パーキンソン病、認知症）とその研究知見を神経科学的手法とともに紹介する。また神経神話（脳に関する迷信）問題について、課題発見解決型学習（PBL）を通じて、巷に氾濫する誤った脳科学情報にきちんと対処できる知識を修得する。教養科目として体験活動も多く交えながらすすめていくので、「興味はあるけど難しそう」と思っている学生さんにこそ受講してほしい科目です。
発達心理学	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について基礎的な知識、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方について説明する。 ・ また、発達障害を始めとする様々な障害等により特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の学習上・生活上の困難を理解し、対応していくために必要な知識や支援方法について説明する。
社会的養護Ⅱ	社会的養護の実際は、児童福祉施設に勤務する職員や里親が提供する具体的な援助方法に支えられている。本科目では、愛着（アタッチメント）、子どもとのコミュニケーション、暴力の防止などをキーワードとしながら、社会的養護の現場における児童の安心・安全の確保を重要な視点とする。そして、その視点に立ったうえで、社会的養護を実践する上で必要とされるケアワーク、ソーシャルワークの知識・技術について学び、その理解と認識を深めることを目的とする。また、児童福祉施設職員または里親からの話を聞く機会を設けることにより、学びを深める。
教育心理学	本授業では、教育現場に限らない幅広い教育活動での活用が期待される心理的知見について紹介する。具体的には、学習や記憶のメカニズム、動機づけに関する学習および認知心理学、学級内での人間関係やリーダーシップ、集団の特性や学級経営に関する社会心理学、パーソナリティや知性、社会性を含む発達心理学などに関連する内容を扱う。そして、授業を通して獲得した知見から、教育現場での活用方法について考え、教育心理学の理解を深める。

科目名	内 容 <small>※授業内容は変更になる場合があります。</small>
幼児と環境	<p>幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に記載されている領域「環境」をもとに、子どもと人・自然とのかわりを理解し、「探索意欲と好奇心を育てる」ための保育内容のあり方を学ぶ。子どもの興味・関心をひきつけ発達をうながす指導の工夫、小学校教育への連続性を学ぶ。</p> <p>具体的には、実際に自然素材や身近な材料を活用したものづくりや遊びを通して、素材研究を行う。それを基に、自然素材や身近な材料を活用した遊びの指導案作成をグループごとに計画作成し、振り返り、改善案を考えるというPDCA一連の学修過程を通して、保育における実践的能力を身につける。</p>
幼児と音楽表現 I	<p>この授業では、保育内容「表現」の内容の理解を深めるとともに、表現に関する子どもの事例を通して子どもの表現の多様性を理解していく。子どもの事例では、日常生活から感じたりかんがえたりする中で生まれた表現に着目することを念頭におきながら、音楽や身体表現に関わる事例を取り上げ子どもの表現について理解を深めていく。</p>
子どもの保健	<p>現在の小児保健の現状と子どもの心身の健康増進を図る保健活動について講義する。保育専門職として、子どもの健康と評価方法を理解し、様々な疾患や障害、子どもの病気に特徴的な症状と保育者としての対応について知識を深めていく。そのために、成人とは違う子ども特有の生理機能・運動機能を学習しながら、現代社会における子どもの健康に関する現状と課題を踏まえ、母子保健・地域保健活動を通して、保育士の役割について解説する。</p>
保育教育文献講読	<p>本授業では、保育・教育に関する文献の購読を通して、4年次の卒業研究での研究活動に不可欠な文献講読の基礎的なスキルを身につけることを目指す。具体的には、文献検索・収集、内容理解と要約、発表資料の作成、討議の仕方を学修する。</p>
保育原理	<p>保育の基礎・基本を学ぶ入門科目として、保育に必要な基本理念や考え方、方法を学ぶ。特に、保育の本質の理解と保育の内容・方法などの基本的視点を習得するとともに、子ども・家庭・地域をとりまく現状や保育者に求められる保育の現代的課題の理解を目指す。</p>
教育課程論	<p>小学校・幼稚園の教員免許取得に必要な「教育課程及び指導法に関する科目」及び保育士資格の取得に必要な「保育の内容・方法に関する科目」に対応する科目である。教職の基礎となる教育課程の基本的な考え方や編成の原理を理解し、小学校・幼稚園・保育所で編成される教育課程・保育課程や実際の指導計画を踏まえ、教育課程や指導計画の編成・作成方法を学ぶことを目的とする。また記録の取り方、子どもの評価や保育者自身の自己評価の方法について学び、保育実践の質向上のプロセスを学ぶ。</p>
子ども家庭支援の心理学	<p>まずは、乳児期から老年期にかけての心身の発達と発達課題を理解する。その上で、生涯発達の観点を踏まえて「家庭・家族の機能」、「親子関係・家族関係」、「子育ての経験と親としての育ち」などをテーマとして子どもと親、家族・家庭のあり方について理解する。その後、特別に配慮を要する家庭を含め、多様な家庭についての理解を深めつつ、成育環境と子どもの心の健康の問題の関係について考える。</p>

科目名	内 容 <small>※授業内容は変更になる場合があります。</small>
総合的な学習の時間の指導法	<p>本科目は、教職課程の「総合的な学習の時間等の指導法」に関する必修科目である。</p> <p>本授業の目標は、総合的な学習の時間において、各教科等で育まれる見方・考え方を総合的に活用して、実社会・実生活の課題を探究する学びを実現するために、指導計画の作成及び具体的な指導の仕方並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付けることである。具体的には、総合的な学習の時間の意義及び教育課程において果たす役割や、総合的な学習の時間の目標並びに各学校で目標及び内容を定める際の考え方及び留意点、各教科等との関連性を図りながら総合的な学習の時間の年間指導計画を作成することの重要性について理解する。また、主体的・対話的で深い学びについての理解を深め、それを実現するような総合的な学習の時間の単元計画・指導案を作成するとともに、探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立てや児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点について理解できるようにする。</p>
特別活動の指導法	<p>前半は、特別活動の目標、内容、カリキュラム上の位置づけ、他の領域や各教科との関連を理解し、4領域の特質をおさえる。後半は、教育課程全体における特別活動の指導を考え、具体的な事例を検討する。評価方法、集団活動の意義、合意や議論の重要性を学ぶ。また、家庭・地域住民、関係機関との連携を考察し、組織的に対応する知識を身につける。</p>
教育相談の基礎と方法	<p>教育相談とは、カウンセリングの考えや技法を活用した教師による教育活動である。本授業では、教育活動や教育現場に関連する心理的知見を幅広く紹介する。具体的には、学校におけるいじめや不登校などの問題行動についての理解と対応、主な発達障害の理解と対応および特別支援教育の在り方について、およびカウンセリングの基礎、保護者支援のあり方について学習する。そして、教育現場で実践される様々な教育活動の意味や背景を理解する。</p>
道徳の理論と指導法	<p>道徳の本質や歴史、道徳性の発達段階、を具体的に考え、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。さらに小学校学習指導要領にしたがい小学校道徳科の目標や内容に関する理解を深める。また、小学校道徳科における指導計画や指導方法、授業設計の方法や特徴を理解し、それらを踏まえた授業計画を構想する。そして、小学生が抱える問題を踏まえたうえで、学習評価や模擬授業の原則や方法を理解し、振り返りを通じた継続的な授業改善の必要性を理解する。</p>
総合英語B (リスニング)	<p>英語の音声に関わる基本事項（母音・子音の発音、音変化、強弱リズム、イントネーション）についての知識を身に付け、その知識をトレーニングによりリスニングとスピーキングの実践的スキルとして体得することを目標とする。授業では、パラレル・リーディング、シャドーイング、ディクテーションを中心としたトレーニングを行う。それにより、英語の正しい音声イメージと様々な話題や状況で実際によく使われる口語表現を内在化させ、リスニングとスピーキングの力を養う。</p>
日本の歴史（近世）	<p>今日の日本の社会や文化の基層をなす江戸時代の社会と文化について学ぶとともに、歴史研究の基本的な手続きである史料批判について理解を深める。授業では、「鎖国」「土農工商」「生類憐みの令」「元禄文化」「田沼時代」「百姓一揆」といった高校までの日本史の授業で学習してきた事項について近年の研究成果を紹介し、当該期の社会や文化などについて講義する。島根の事例を交えて説明することで、地域の歴史を相対化して捉える視点も養う。</p>

科 目 名	内 容 <small>※授業内容は変更になる場合があります。</small>
日本の歴史 (文化史)	天変地異を文化史の側面から考察し、江戸時代の人々が我が身に降りかかった天変地異をどのように理解したのか、そしてどのように対応したのかを検証する。天変地異を切り口として、過去もまたひとつの「異文化」であることを理解すること、ならびにわたしたちの文化と社会を相対的に捉える視点を獲得することが授業の目的である。授業は、毎回ひとつないし関連する複数の天変地異を取り上げ、当時の人々の記録を読み解きながら進めていく。
日本文化論 (祭礼と芸能)	この科目は、民俗学に関連する基礎科目です。 現在、日本では多様な「まつり」が行われています。この授業では、特に地域社会に根付いた祭祀・祭礼と芸能に注目して、それらを理解するために必要な基本的知識を身に着けます。内容は理論編で祭祀・祭礼および芸能を読み解くフレームを確認したあと、祭祀・祭礼編、芸能編で具体的な事例を検討します。取り上げる事例は特殊なものではなく、日本各地に類例が確認できるものとします。 なお、この授業では日本という地域を設定しますので、山陰地域の事例については後期の「山陰地域の民俗文化」で取り上げることにします。
日本文学概論A	日本の古典文学のうち、上代から中世までを対象として、その時代の代表的作品の考察を行う。作品は、神話・和歌・物語・日記・随筆、それらを典拠としつつ新たな解釈を加えた伝統芸能を扱う。古典文学の分析方法、古代的な発想・慣習・文化について理解を深めたい。また文学者の人生についても焦点を当て、当時の文化や歴史的背景をふまえて文学を理解する力を養う。
児童文学	絵本と童話に関する知識と鑑賞力を養い、児童文学について理解を深めることを目標とする。絵本と童話の歴史を紐解きながら、多種多様な絵本と童話の世界を具体的に鑑賞し、内容を考察する。学内にある児童図書専門図書館「おはなしレストランライブラリー」を利用して、学生による読み聞かせ、ブックトーク（テーマを決めて数冊の絵本・童話を紹介する）やポップの作成を取り入れながら授業を進行する。ストーリーテリングや日本独自の文化である紙芝居についても取り上げる。
近代文学演習 I	近代文学の中で中学・高校の国語科教材として採用されたことのある作品を中心に取り上げ、学生による発表とその後のディスカッションを中心に進行する。作品の読解を深めることを主眼に置く。
英語学概論A	言語学や英語学について書かれたテキストを読みながら、広く言語や英語に関する基礎的な知識を身につける。イギリス英語とアメリカ英語、世界語としての英語、言語と文化、言語使用域、言語習得、英語の音声、英語の名前、言語接触と借用、言語の変種、単語や文の意味、和製英語、語形成、綴りと発音、言語学習、スラング、言語とコンピューター、スコットランド英語、ピジン英語、擬声語、シェークスピアの英語などをトピックとして取り上げる。
英語学概論B	英語がどのようなしくみを持ち、どのような規則によって成立しているのか、またどのようにして運用されているのかを、音声・音韻・形態・統語・意味・語用の面から概観し、言語を分析的に捉える視点を学修し、英語への理解を深める。

科 目 名	内 容 <small>※授業内容は変更になる場合があります。</small>
英文法Ⅰ	<p>これまでの英語学習で蓄積された文法知識を体系的に整理しながらさらに英語学的に深め、ことばの運用を背後で支える文法についての知識を確かなものにすることを目標とする。授業では、例文が示す様々な言語現象に対して「なぜ」を問い、その背後にある英語の意味上・統語上の規則性を探って考察し、文法分析の基本的な考え方や視点を身に付ける。文法項目を前篇と後編に分けてそれぞれを「英文法Ⅰ」と「英文法Ⅱ」で扱うので、全体を網羅するためにも、Ⅰ、Ⅱともに履修することが望ましい。</p>
パラグラフ・ライティング	<p>英文パラグラフの論理構成・展開がしっかりできるように、まずは一文単位の作文演習を通して、伝えたい内容のポイントがsentenceレベルの英文で確実に表現されることを目指していき、それを踏まえてパラグラフの作文演習に移る。</p>
メディア英語Ⅰ	<p>メディア英語の特徴（見出しの文法、構文、語彙、構成など）を押さえながら、社会・文化・政治経済・情報・教育・科学医学・環境など様々な分野にわたるニュース記事を読み、英語で情報収集する力を身につけ、現代社会が直面する諸課題への理解を深める。また、ニュース記事に出てきた語彙や表現を身につけるための演習も行い、語彙力と表現力を高める。</p>
イギリス文学概論	<p>英国の歴史・社会・文化の動向の中で、英国における叙事詩、抒情詩、劇、散文、小説などのジャンルが、どの時代にどのように興り、発展していったか、その中で作品はどのように生まれ、文学史的にどのように位置づけられていくのか、具体的にいくつかの作品を取り上げ鑑賞しながら考察していく</p>
イギリスの文学と文化A	<p>当授業では主として英文学の散文・小説ジャンルの中から作品を取り上げて読むが、今年度はラフカディオ・ハーンの著作から抜粋して読む。書かれた当時のハーンの周囲、日本、また世界の文化的社会的状況なども視野に入れ、作品を原文で味わい鑑賞する。</p>
神話と伝説	<p>日本古典文学のうち、神話と伝説について取り上げ、読解を行う。『古事記』の出雲神話及び『出雲国風土記』の国引き神話などについて、上代語と神話表現の特質、及び地理的環境や古代史を踏まえ、作品の構造と成立の文学史的意義について考察する。また、神話との連続性をもつ伝説について、『風土記』、『万葉集』及び松江の伝説を取り上げ、話型論、歴史、習俗、古語をふまえた考察を行う。</p>
多文化共生論	<p>多様な文化を持つ人びとと地域で共生する方法を学び、グループワーク等を通じて、受講生が自ら考察することを目標とする。多文化共生を目指して地域で活動する外部講師の方々の講義で、島根の現状と課題、行われている取り組みについての学びを深める。地域に住む多様な人々が良好な関係を築き、それを維持するために重要なことについて、主体的に考えられるようになることを目的とする。</p>
観光文化論	<p>文化と観光は、相互に関わり深いものです。また、観光というものの自体が、人々が織りなしている文化だともいえます。 この科目で受講生は、観光と文化との関係性を学習の切り口にして、それらの言葉が指し示す範囲や両者の相互的な関係の在り方について学びを深めます。</p>

科 目 名	内 容 <small>※授業内容は変更になる場合があります。</small>
観光文化演習	観光と文化のつながりについて、周辺の地域社会をフィールドとして、講義形式と演習形式を横断しながら、実践的・主体的に学ぶ授業です。観光文化や地域文化を形成している様々なアクター（主体）について、自らの五感を使って参与観察・フィールド調査を実施し、その活動を通して地域社会に存在するイデオロギーや慣習、ローカルルール等を発見・分析する力や文化的想像力を養うことを目指します。
教育相談	本授業では、教育現場で直面するであろう諸問題に関する基礎知識を身に付けることに加えて、教育相談について受講生が自ら考えられるだけの力を養う。
基礎ドイツ語	ドイツ語の発音と基本文法の習得を行う。四技能すべては目指さず、主に読める（音読も含む）ようになることを主目的とする。発音と基本文法が身につけていけば、「話す・聞く・書く」の3技能への応用が利き、またさらなる勉強にも繋げられる。 また、ドイツ語は、英語と同じゲルマン語派の西ゲルマン語群に属しており、英語と非常に近い関係にあり、かつ古い形態を残している言語である。そのため、英語学習において疑問に思っていたことがドイツ語の学習をとおして発見できることも期待している。
対照文法	日本語に形式的には現れないが、日本語に内在するカテゴリーを、外国語との比較対照をとおして可視化しながら学ぶことを目的とする。自然言語は、外見上多様であるが、人間の認知的な部分が反映されている場合が多く、このような部分を意識化し、日本語に形式的に現れない文法について学ぶ。特に、欧米言語の冠詞の意味を結束性という概念を通して理解し、日本語ではどのように表現されているのかを見たり、時制とアスペクトの対比で日本語ではこれらのカテゴリーがどのように機能しているのかなどを学ぶ。